

評価実施年度	令和 5 年度	学校名	大分県立 大分工業 高等学校	
学校教育目標	6学科の専門性と探究的学びを生かしたものづくりによるひとづくり教育に加え、県内の産業界や高等教育機関、行政等と連携した高度な専門的知識・技術の習得により、地元大分を支え、さらには技術で未来をひらく工業人材に必要な力を育成する。			
重点事項	評価項目	評価の観点	評価	今後の改善方法(学校作成)
カリキュラム・マネジメントの確立	学校教育目標	〇的確な学校経営ビジョンが策定されていて、学校教育目標の達成に資するために重点目標の焦点化が図られ、校長のリーダーシップの下、全教職員による教育活動が展開されているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>極めて良い。</li> <li>校長のリーダーシップの下、明確なスクール・ミッション、ビジョン、ポリシーが示されていてよい。</li> <li>スクールミッションを実現する道筋が明確に示され、実践されており、高く評価できる。</li> <li>急激な時代変化の中で「不易流行」を掲げ、ものづくり、人づくりを通じた「人間力」の育成が実践されている。</li> <li>SDGsやDXに対応した最先端の学び、実習を通じた「社会対応力」について実践されている。</li> <li>教育活動が全国大会等での優秀な成績の成果につながっており、高く評価できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スクール・ミッションに掲げる「地元大分を支え、技術で未来をひらく工業人材に必要な力を育成する」ため、地元産業界から求められる、ものづくりの知識と技術力を育成していく。</li> <li>各種大会で全国レベルで活躍できるよう、探究的な学びを通じて主体的に課題を発見、解決できる力を育成していく。</li> </ul>
	PDCAサイクル	<ul style="list-style-type: none"> <li>〇重点目標を達成するための焦点化された取組指標や達成指標等が適切に設定され、機能しているか。</li> <li>〇取組指標や達成指標等の評価・検証を計画的に行い、以後の実践に直ちに反映させるなどPDCAサイクルが確立しているか。</li> <li>〇予期しない課題が判明した時点で、その解決に向けて校内分掌が速やかに機能するように、組織的な責任・運営体制は整備されているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>極めて良い。</li> <li>重点目標の実現、結果の把握、課題の認識及び改善策が明確に示し、着実な改善効果が出ている。</li> <li>PDCAサイクルが組織的に確立、実践されていることは高く評価できる。</li> <li>各学科、教科で組織的な取組が実施され、高い教育効果が発揮できていることは高く評価できる。</li> <li>学科間横断では、全校ホスターセッション等、生徒相互が刺激を受ける機会となり、継続的な実施が望まれる。</li> <li>達成指標は、実情に合わせた細かい設定、社会動向に合わせて変更等、形骸化しない工夫が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>最先端の実習機器・設備を用いた高度な専門知識・技術を、産学官と連携して習得する学びや、課題研究・探究学習等を通して、豊かな創造性を育み、主体的に課題を発見し、問題解決に繋げる学びを実践していく。</li> <li>国家資格の取得やインターンシップ等の体験を通して生徒の進路意思を高め、学科と協力して自ら選んだ希望進路に向けた努力を促し成果を出すことで、生徒の達成感・満足度を高めていく。</li> <li>生徒会執行部・各科三役のリーダーシップを継続して育成し、学校行事や部活動を充実させることで学校の活力を高めていく。</li> </ul>
	社会との連携・接続	<ul style="list-style-type: none"> <li>〇「開かれた教育課程」の理念に基づき、育成したい生徒像が家庭及び地域と共有されているか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>情報の伝達・公開を適切に行っているか。（ホームページ・SNSの活用、学校便りの発行等）</li> <li>生徒・保護者の学校への満足度や要望を把握する取組を行っているか。</li> <li>地域内外の関係機関との連携や人材を活用しているか。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>極めて良い。</li> <li>自治会との連携強化等、地域住民との新たな関係強化ができていることは高く評価できる。</li> <li>各種取組や成果をホームページ、SNS等で発信し、マスコミにも多く取り上げられており評価できる。</li> <li>小中学校やイベント等への参加は、学校の魅力発信や生徒が自ら考え判断・行動できる学びとなり評価できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校HP・Facebook・PTA広報誌等を活用し、情報発信を継続して進める。</li> <li>記事公開のソフトウェアを扱うための研修を実施し、情報発信ができる職員を増やす。</li> </ul>
主体的・対話的で深い学びの実現	授業の活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>〇授業の活性化が図られているか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>学ぶことに興味や関心を持ち、見通しを持って取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。</li> <li>授業のねらいに応じて、言語活動の充実を図ることで、「対話的な学び」が実現できているか。</li> <li>授業の中で、知識を相互に関連付けて深く理解したり、情報を精査して自己の考えを形成したりする「深い学び」が実現できているか。</li> <li>ICTを活用して、授業の効率化や授業の振り返りにつながっているか。</li> </ul> </li> <li>〇総合的な探究の時間や課題研究の学びとその他の教科・科目の学びが有機的に結びついているか。</li> <li>〇生徒の学習習慣が定着し、学力及び学習意欲の高まりがみられるか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>極めて良い。</li> <li>教科に応じたICTを活用した授業が展開され、生徒の理解度促進、主体性を引き出す工夫が見られ評価できる。</li> <li>教員と生徒の良好な関係が構築されている授業が多く見られ、双方向型授業が展開され高く評価できる。</li> <li>実践教育では、最先端のものづくりや精巧な技術指導が展開され、生徒の成果物もレベルが高く評価できる。</li> <li>地域や社会との接続を意識し、学年に応じてステップアップする探究学習の設定は高く評価できる。</li> <li>企業、行政、大学との連携強化による学びの深化やキャリア教育、進路指導の充実が図られ高く評価できる。</li> <li>「主体的に学習に取り組む態度」の育成においては、組織的な取組による改善、成果を期待したい。</li> <li>今後も良い事例を積み重ね、学科、教科、教員の世代を超えて共有する仕組みが構築されることを期待する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>観点別評価について理解を深めつつ、引き続き校内授業研究会を通して言語活動や学習用タブレットの効果的な活用方法について模索する。</li> <li>幅広い学力層に対する効果的な授業の在り方を模索すると共に、自学力を伸ばすための工夫を検討する。</li> <li>実習時間と探究学習のバランスについて検討を行い、PDCAサイクルを回し、ブラッシュアップを継続する。</li> <li>生徒のプレゼンテーション能力を更に高めるために、各発表会の実施方法を検討する。</li> <li>授業支援アプリケーション(MetaMojiClassRoom)やMicrosoft Teamsを有効活用し、資格試験に向けて、家庭学習が取り組めるように、さらに環境を整える。</li> </ul>
安全・安心な教育環境	いじめ・不登校等の対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>〇計画的な面談・相談を通して、個々の生徒の状況を理解した上で、生徒指導が学校の組織を挙げて行われているか。</li> <li>〇いじめ・不登校防止対策に取り組む体制が整備され、いじめ・不登校問題に対して適切な対応がなされているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>極めて良い。</li> <li>いじめ等に対しては、随時把握、対応する体制を整えており、適切かつ迅速に対応していることは高く評価できる。</li> <li>生徒の特性、気質も変化してきていると考えられるため、今後も不断の努力による適切な対応を期待する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月の学校生活アンケートの結果を基に、支援が必要と思われる生徒への迅速な対応方法の検討を行っていく。</li> <li>合理的配慮対象生徒については、授業担当者も含めた情報共有をし、必要に応じて外部機関の活用も図る。</li> <li>生徒支援委員会が中心になって、いじめ等の諸問題への対応の仕方を提示する。</li> <li>学習用タブレットやSNSの利用について、全校集会や学年集会、生徒会で啓発活動を行う。</li> </ul>
	安全管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>〇学校施設等の安全点検や通学の安全指導及び教職員・生徒の安全対応能力の向上を図るための取組が定期的に行われているか。</li> <li>〇学校事故や非常災害など、緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理体制が機能しているか。また、生徒の安全を確保するための具体的取組が行われているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>良い。</li> <li>自転車事故が多く見られる(特に1年生1学期)なか、申告制度による事故の把握、適切な対応がされ評価できる。</li> <li>今後は安全講習の実施時期の見直し等、事故のさらなる減少を期待したい。</li> <li>事故再現の実演による安全教育を実施する等、現実かつ有効な対策を取っていることは高く評価できる。</li> <li>加害者にも被害者にもならないための交通ルール等の遵守や、その必要性の理解を含め適切な指導を期待する。</li> <li>熱中症対策、避難訓練、災害時対応等、適切な対応が取られており評価できる。</li> <li>上記の事象は年々深刻さを増しており、その対応の適切性について不断の努力が望まれる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自転車事故防止啓発活動として、生徒会と連携し朝夕のあいさつ運動を継続する中で、事故件数の減少を目指す。</li> <li>教職員救急法講習会を4月実施に変更、また、スポーツクターによる応急処置講習会を行事前に実施することにより、職員の意識高揚を図る。</li> </ul>
信頼される学校づくり	働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> <li>〇生徒と向き合う時間を確保し、生徒に対して効果的な教育活動を行うことができるよう、働き方改革が推進されているか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>会議・分掌業務、学校行事の精選、見直しを図られているか。</li> <li>組織的な指導・運営体制の構築と学校の活動方針の徹底等による部活動改革に取り組んでいるか。</li> <li>情報共有の効率化や校務情報化の推進など、ICTの効果的な活用によって業務改善が図られているか。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>管理職の指導、教員間の支援が適切。多忙感があるもののストレス度が全体的に低いことは高く評価できる。</li> <li>学校の活発化による超過時間勤務はやむを得ない面はあるが、DX推進、業務見直し、働き方改革を期待する。</li> <li>人材不足により、クラス担任ができる教員が減少している。県全体の問題としての取組が望まれる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月、職員に超過勤務時間を周知し、職員への声かけ、助言を継続する。</li> <li>部活動指導を分担する等の工夫改善を進めていく。</li> <li>情報共有、迅速な判断・対応を行い、教職員が一人で抱え込まず、問題の重大化防止を図る。</li> <li>報連相を大切に、相談しやすい環境を整える。</li> </ul>
	学校課題の解決に向けた取組等	<ul style="list-style-type: none"> <li>〇定員確保</li> <li>〇地域との連携協力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会的需要にあわせて学校規模が拡大していくなか、本県工業教育をけん引する存在として期待する。</li> <li>県教委や産官学、地域との連携強化により、定員確保や教育体制・設備の充実・確保などを期待する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「大工を卒業して良かった」から「大工に行きたい」学校にするため、学校の魅力発信を継続して行っていく。</li> <li>県内の産業界や高等教育機関、行政等と連携した高度な専門的知識・技術の習得を目指す。</li> <li>中学校への積極的な出前授業や各種イベント等をととして、工業高校の魅力を発信し続ける。</li> </ul>
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>県内工業高校をけん引する高校として、校長のリーダーシップの下、相応しい取組を組織的に実践、継続されており、教員・生徒の満足度、学校に対する誇りも高く、大いに評価できる。</li> <li>ものづくりについては、最先端の教育を導入したり、全国レベルの成果も出ており、県内工業高校をけん引する存在として、今後もその取組に期待したい。</li> <li>フレンドリーな教員や指導熱心な教員が多く、教員と生徒の距離感が近く、生徒が絶大な信頼を置いていることが感じられた。このことが生徒の学びの動機付けや学校に対する高い満足度につながっており、高く評価したい。</li> <li>進路指導に対する生徒の満足度も高く、産業界等との連携が適切になされている取組は高く評価できる。</li> <li>3観点のバランスの良い育成、評価方法の構築、多様な生徒への対応等、引き続きの課題はあるが、総じて組織的な取組がなされており、今後の成果にも期待したい。</li> </ul>			
校長コメント(次年度の改善策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリア教育の充実により、主体的に進路決定ができつつあるが、一次就職試験合格率と進路指導満足度の上昇を目指したい。</li> <li>保護者アンケートで97%が「家庭で自転車事故等の防止について注意喚起を行っている」と回答しているものの、自転車事故が41件発生した。並進やヘルメット未着用等の実態も見受けられるため、生徒、保護者の交通事故防止へのさらなる意識高揚を図っていきたい。</li> <li>資格指導において、「家庭での資格の学習に取り組んだ」と回答する生徒が増加してきたものの、主体的に取り組めていない現状がある。ICTを活用し、学習ができるよう環境を整えると共に、合格率をさらに高めるために、学校で効率よく学習するための仕組みづくりを行いたい。</li> </ul>			